

伊勢・三河湾に行く

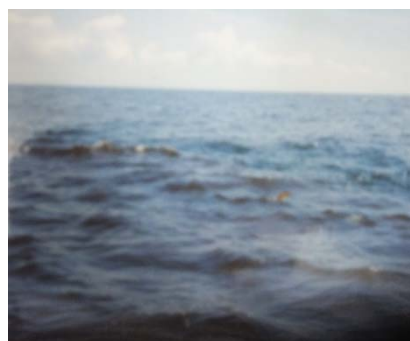
1992年に中部の環境を考える会のメンバーを中心に「伊勢湾研究会」が組織された。旭硝子財団から「閉鎖性水域の沿岸地域の持続的な開発および管理システムの形成をめぐる社会科学研究—伊勢湾沿岸域の開発を素材として」というテーマで、1992年度から2年間にわたり研究助成を受けることができ、調査研究がスタートした。

先にレポートで紹介した、著名な海洋学者の西條八束先生も加わった研究会であり、私も社会科学の分野から参加した。まずは、伊勢・三河湾の現実を見るために、日間賀島の漁師・坂口久巳さんの案内で、漁船に乗って海から伊勢・三河湾を眺めることにした。坂口さんには、その後も中部空港などの調査研究でお世話になったが、若くして急逝されてしまい、本当に残念でならない。

河和から伊勢・三河湾に向かうと、写真のように海の汚れも目についた。研究会の成果である『伊勢・三河湾再生のシナリオ』八千代出版、1995年のなかで、西條先生は次のように書いている。「伊勢湾のなかでも三河湾は、この30年ほどの間に、ほとんど一年中赤潮の出ている汚れた海になったしまった。いまでは東京湾をしのぐ日本で一番汚れた海といえるであろう。しかし、30年前は高い漁獲量を誇り、水がよく澄んだ海であった。そこで、汚れの原因をきちんと科学的に解明し、それと並行して抜本的な対策を検討する総合的な組織と法制度を、緊急に整備する努力が行政当局には強く求められよう。そうすれば美しい海は必ず取り戻せる。」

下の写真は、伊勢湾の常滑沖の中部空港埋立予定地のあたりで、私がインタビューを受けている様子である。伊勢・三河湾調査にNHKが同行取材して、夕方の番組で放送された。私が初めてテレビに「登場」した記念の映像であり、いまでも忘れられない。じつは船が揺れて、海に落ちるのではと、怖々と緊張して空港建設の問題点などを語った。まさに「キンチョーの夏 伊勢湾常滑沖」であった。

とかく陸から海を考えがちであるが、海から陸(開発)をじっくり考えることができた。空港関連の講演のために、古い資料を探していたら、30年ほど前の貴重な写真が見つかり、懐かしさのあまりレポートした。



(2014年10月8日)